

ら広報・情報基盤開発委員会、第19期（2016年度）からは学会広報・情報基盤委員会と変遷している。ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）の進歩、特に、SNS（Social Networking Service）とそれらを利用するためのスマートフォンやタブレットなどのデバイスの急速な普及は、社会はもちろんのこと、医学教育にも大きな影響を及ぼしている。このような情報技術の進歩を踏まえ、当委員会の2014年からの活動を振り返り、今後のあり方を展望したい。

学会広報については、Facebookを2013年の開始から公式ホームページと連動して運用して、2017年10月現在、177件の記事を掲載し、616のフォロワーを得ている。2017年9月には学会公式ホームページを11年ぶりに全面リニューアルした。学会パンフレットも2018年に初めての全面改定を行う。情報基盤については、これまでの医学教育情報館MEALに加え、学習管理と情報共有を主

たる目的としたMoodle（2014年）、eラーニングコンテンツの作成と共有が簡単にできるXerte（2015年）、医学教育のための電子コンテンツの共有・公開サイトNetCommons（2017年）の3つのサーバを構築した。これらのサーバ群は、AAMC（Association of American Medical Colleges）の「MedEdPORTAL」のように電子版の医学教育コンテンツを論文と同様に業績として認めて共有するシステム、すなわち「日本版MedEdPORTAL」を目指したものである。これらを活用するコミュニティを広げるためのワークショップも4回開催した。情報基盤の大きな変化、それに伴う教育・学習方法の変化に応じた情報と情報基盤を提供していきたい。2018年7月には2018年版「医学教育白書」を刊行する。

副委員長：瀬尾宏美、委員：浅田義和、臼井いづみ、菅沼太陽、杉本なおみ、鶴田潤、丹羽雅之、Raoul Breugelmans、守屋利佳

*¹ Public Relations & Information Infrastructure Committee

*² Michio Shiibashi

3. 学会国際化委員会*¹

村岡 亮*²（委員長・国立国際医療研究センター）

第19期学会国際化委員会は、18期国際関係委員会（鈴木康之委員長）の活動を引き継ぎ、医学教育分野での世界の潮流を踏まえ、医学教育の実践および研究における国際交流の活性化などを通じて、学会全体の国際化に貢献している。また、海外で医学教育理論や実践的研究手法を系統的に学んだ外国語に堪能な若手学会員が、学会内で存分に活躍できる環境づくりを行い、将来、「日本オリジナル」の医学教育コンテンツが、海外に向けて活発に発信される基礎を築くことをめざしている。

以上を踏まえて、当委員会の活動は以下の通りである。

1. インターナショナルセッション（ITNS）の推進

大会会期中に英語で行われるITNSの運営を行っている。平成29年8月の第49回大会では、10カ国から過去最多の60題の演題応募があった。今後も、ITNSの目的と意義を考慮しつつ、一層多くの国々からの参加を促すと同時に、発表内容の質向上を目指す。